

亀田製菓株式会社

Mary's Gone Crackers, Inc.

Vice President, Production

エグゼクティブフォーラム 29 期生

井野元 弘 様



■ 刺激的なチーム研究

私は、これまで社内の研修は多く参加していましたが、社外の異業種の方と参加する研修は初めての経験でした。研修では、チームごとに研究テーマに取り組みます。私のチームは、組織の中でなぜイノベーションが起きないのか、というテーマに取り組みました。メンバーと議論を重ねていくと、そこには新しいことを始めると組織の中で疎外感を感じる共通の課題感がありました。そして皆さんが、企業の成長と自らの成長を心から望んでいる様子が伺え、そのことが自分にとって大変刺激になりました。チームで議論を重ねていくと、自分たち自身の意識にも課題があることに気づきました。目の前の仕事に忙しく取り組んでいるとやらなければならないことで 1 日があっという間に過ぎてしまいます。本当はもっとやるべきことがあるのではないかと感じつつ、そのような状況に押し流されている自分たちもまた、課題の要因であると感じました。企業の成長のために、自分たちの意識を変えるために、何をすれば良いのだろうか。チームメンバーとは来る日も来る日もそのことを問いかけ続けていたように思います。

■ タイムなスケジュールをこなせたのはメンバーのおかげ

エグゼクティブフォーラムは、月に 2～3 回のペースで半日間実施する全体プログラムへ参加し、同時にチーム研究を行うというスケジュールでした。チーム研究は、各チームが自主運営します。私は遠方から参加したため、メンバーが全体プログラムの開催に合わせてチーム研究の日程をセッティングしてくれるなど、私が参加しやすいよう配慮してくれました。おかげで、ほとんど欠席することなく参加することができ、遠方のハンデも感じることなく参加することができました。チーム研究が終わった後、時には新幹線の最終便までの間を使った反省会にも懇親を兼ねて参加し、それが楽しみの一つでもありました。

チーム研究ではコーディネーターの先生との議論もセッティングされています。先生から、「頭がぐちゃぐちゃになるまで考えて！」など、我々が迷走しているところにさらに追い打ちをかけるアドバイスもあり（笑）、窮地に陥りながらも言葉にしなけければならないという苦しい場面もありましたが、今ではとても良い思い出です。また奈良、山梨と 2 回の合宿があり、帰る時間を気にすることなく議論ができました。仕事を離れて非日常的な環境で過ごすことは、自分の頭の中も解放された気がしました。

私たちは、自分の熱意と組織の熱意をそれぞれ掛け合わせることが、イノベーションを発揮することにつながるということを提言としました。自分の熱意を発揮するには、ただ自分がやりたいことをやるというモチベーションを指すのではなく、会社から自分に与えられた役割の中でやるべきことをやり切ることや、自分が持つ本来の強みも含まれます。この 3 つの領域の重なった部分が個人の熱意となり、さらに個人の熱意を存分に発揮できるような組織体制を会社側でも整えることで、組織の熱意となるという論理モデルを構築しました。

最後に行う提言発表会を終えた時は、これまでの半年間を振り返り、言葉では言い表せない充実感を感じました。

フォーラム修了後は、チームを超えて同期メンバーとしての繋がりが持てます。このメンバーとの繋がりは、個人間はもちろん、企業間の繋がりともしも続いていきます。実際に自分たちがお互いの企業間のパイプ役となり、新たな交流が実現できたこともあります。

■ 自ら動きだし、メンバーに良い影響を与えることが目標

最後に、私がエグゼクティブフォーラムに参加して一番大きく変わったのは、自分自身への取り組み姿勢です。何か新しいことや大きなことへの挑戦するためにも、まずは最初に小さな一歩を踏み出すことから始めるということ、そしてそれが組織を超え、大きな躍動に変えることができるよう自らが周りの人に働き掛け動き出すことが重要だと気づきました。今は、そのような行動を起こすことにより、部署のメンバーや組織に影響を与える存在になりたいと思っています。